

昭和57年

# 一年を振り返って

今年もあとわずか。この一年日光市が進めてきた「明るく住みよい町づくり」「市民参加の市政」がどのように実を結んだかを振り返ってみました。

あなたにとっては、どんな一年でしたか。



日光の将来はどうあるべきか。今年度の重点事業の一つとして「日光市の未来像策定事業」に取り組みました。

現在は、市民各階各層の代表者二十二名によって毎月一回検討委員会を開いています。

(写真は第一回の検討委員会)

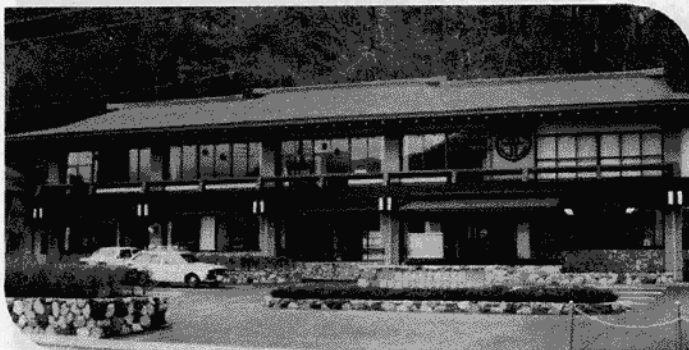
昭和五十五年七月から建設工事が始まった日光小学校は、総工費十二億円をかけて今年三月に完成。また、清滝小学校の木造校舎も一億六千五百万円をかけて改築されました。



地域のふれ合い、豊かな人間性を養う場として、中宮祠に「奥日光コミュニティセンター」が完成。



北海道苫小牧市との姉妹都市盟約式が、四月十六日に総合会館で行われました。



表紙シリーズ

市民の中に

生きる文化財

## 防火隊碑

日光山案内の中では、日光奉行が交代着任すれば必ず日光山へ「火の用心」を厳達してその注意を喚起することを慣例とした。

承応元年(一六五二)幕府は日光火之番を常置し、鎗奉行配下の八王子千人同心にこれを命じた。日光火之番は、一組を頭一人に五十人とし、二組宛五十日交代で警火に当たったが、寛政三年(一七九二)からは一組で半年交代の在勤となった。

今、浄光寺にある防火隊碑は、文化年間までに日光に客死した数十名について、当時在勤の頭原胤教が合葬し、天保五年(一八三四)に在勤の頭、山本金右衛門がこの碑を建てた。明治以後荒廃していたのを、昭和三十二年に二社一寺と日光市消防本部が現在地に再建した。(日光市指定の文化財より)所在地 日光市匠町 浄光寺内 (昭和四十二年二月指定、指定第十二号)